

解説「わかりやすいXML / EDI」

第7回 物流XML / EDI標準とは

1. 物流XML / EDI標準とは

物流XML / EDI標準とは、ここではe bXMLに準拠して作成した物流業務に係わるXML / EDI標準をいうこととします。

物流のグローバル化、SCM¹による企業間コラボレーションの深度化、3PL²などの新しい業態などへの対応のために、新たなビジネスプロセスの電子化が必要となっています。インターネットを活用したEDIのニーズも高まっています。

荷主業界では受発注業務を中心にXML / EDIの導入を開始しており、物流業務へのXML / EDI適用ニーズも出始めています。

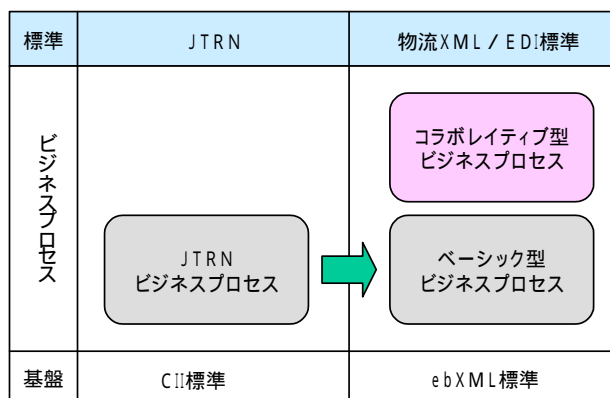
荷主業界が個別に物流XML / EDI標準を作成してそれぞれが整合性の取れないものとならないように、日本国内で物流XML / EDI標準の基盤や枠組みの統一案を提示し、整合性の取れた物流XML / EDI標準としていく必要があります。物流のビジネスプロセスは、荷主業界と物流業界の業際プロセスによって成り立っていますので、このような作業は宿命ともいえます。

ここでは、(社)日本物流団体連合会の物流EDIセンターが進めている物流XML / EDI標準(国内物流)の検討状況を参照しながら解説することとします。

2. 物流XML / EDI標準の開発方法

従来の国内物流EDI標準「JTRN」では、物流分野のビジネスプロセスのうち、定型的、バッチ的に処理するプロセスを対象としてきました。非定型的、対話的に処理するビジネスプロセスについては、これまで電話、Eメールなどにより人手で処理してきましたが、物流XML / EDIの

図 - 1 物流XML / EDI標準の開発方法



導入でこれらのプロセスのEDI化が可能となります。

従来のバッチ型プロセスはJTRNで、新たな対話型プロセスは物流XML / EDI標準で、とEDI標準を使い分ける方法もありますが、できれば同一のEDI基盤でバッチ型プロセスも対話型プロセスも実現できることが望ましいといえます。

そこで、図 - 1 に示すように、JTRNの対象としているビジネスプロセス(ベーシック型ビジネスプロセス)のEDI標準を物流XML / EDI標準に移行させるとともに、新たなビジネスプロセス(コラボレイティブ型ビジネスプロセス)の物流XML / EDI標準を追加していく開発方法がベストといえます。

3. 倉庫事業者預託プロセス

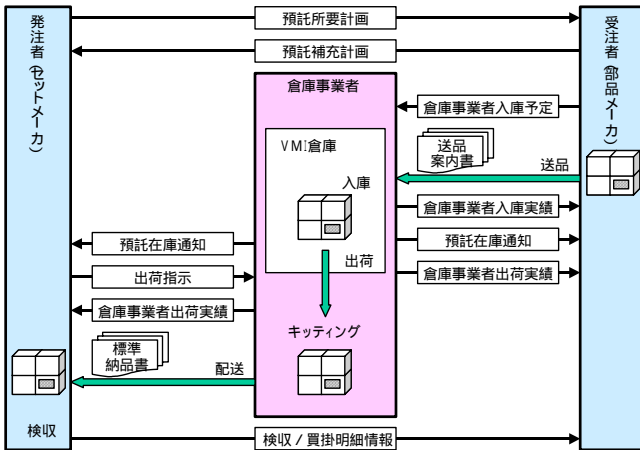
(社)電子情報技術産業協会(JEITA)では、物流に係わるXML / EDI標準として倉庫事業者預託プロセス(JEITA-VMI)を開発しました。これは、ECALGAのコラボレイティブEDIに位置付けられるもので、物流事業者と共同で開発したものです。

図 - 2 に倉庫事業者預託プロセスの概要を示し

¹ Supply Chain Management

² 3rd Party Logistics

図 - 2 倉庫事業者預託プロセスの概要



ます。

部品メーカーは、セットメーカーの近くにある倉庫事業者の倉庫に部品を保管しておき、セットメーカーの出荷指示により倉庫事業者は部品メーカーの部品を出荷し配送する仕組みとなります。倉庫事業者からセットメーカーへの配送は365日24時間、1日数回の頻度で行われることが想定されています。部品メーカーは出荷実績と在庫状況を把握し、在庫不足が発生しないように適切なタイミングで部品を入庫させておくこととなります。

倉庫事業者は、セットメーカーの指示により部品メーカーの寄託物（部品）を出荷する必要があるため、セットメーカー、部品メーカーと倉庫事業者の間で寄託約款とは別の契約手続が必要となります。

4. 物流XML/EDI標準の対象プロセス

物流XML/EDI標準の対象プロセスは、JTRNビジネスプロセスを移行させたベーシック型ビジネスプロセスと新たなプロセスを対象としたコラボレイティブ型ビジネスプロセスに分けられます。

図-3に示したJTRNビジネスプロセスは、JTRNの対象とするプロセスとメッセージを、ビジネスプロセス単位にまとめた案です。

ベーシック型ビジネスプロセスについては、JTRNビジネスプロセスの中から必要なプロセスを選択して順次物流XML/EDI標準に移行させていきます。移行に当たっては、JTRNでは

あいまいであったビジネスプロセスの遂行条件、契約条件の明確化も必要になります。JTRNを導入し取引の電子化を実施していながら、個別契約処理は別途、帳票で後付け処理している企業も多く見受けられます。これでは、電子取引の効果が半減しかねません。電子取引を前提とした契約形態への移行が望まれます。

コラボレイティブ型ビジネスプロセスには、前述した倉庫事業者預託プロセス、物流事業者がWebで実現している貨物照会プロセスや在庫照会プロセスなどが該当します。今後、3PL業務、SCMなどをサポートする新たなビジネスプロセスなどを分析整理したうえで、物流XML/EDI標準の対象プロセスとして選定し開発を行っていくこととなります。

これまで、国内物流業務に限定して解説してきましたが、JTRNには3A版から国際物流業務が追加されています。このEDI基盤はUN/EDIFACTですが、使用されているデータエレメントはJTRNデータエレメントとしてユニークなタグ番号を付与し、国内物流・国際物流共通の辞書として扱えるようになっています。

今後、国際物流プロセスも物流XML/EDI標準の対象プロセスとして検討を進めていく必要があります。

(武山 一史)

図 - 3 物流XML/EDI標準対象プロセス

	JTRN	物流XML/EDI標準
ベーシック型	運送業務 ・集荷プロセス ・配送プロセス ・運送完了報告プロセス ・配送エリアマスター通知プロセス ・運送状況通知プロセス ・運賃請求支払プロセス 倉庫業務 ・入庫プロセス ・出庫・出荷プロセス ・流通加工プロセス ・名義変更プロセス ・品名マスター等通知プロセス ・在庫報告プロセス ・倉庫料金請求支払プロセス	必要なプロセスから順次移行
コラボレイティブ型	なし	・貨物照会プロセス ・在庫照会プロセス ・倉庫事業者預託プロセス ・3PL関連プロセス ...